心豊かな世代が育つ童話の里づくり 432

―シリーズ― あなたの人権・わたしの人権

「廣田さんと出会って…」

玖珠町立八幡小学校　6年
衛藤　萌那

私は、学校の授業で視覚障がい者について学習をしました。

最初、もし私が視覚障がい者になったら、こわいなあ、いやだなあと思いました。なぜなら、字が書けなくなるし、運動もできなくなるし、一人では何もできなくなってしまうと思ったからです。

最初の授業で、視覚障がいゴーグルを体験しました。

まず、ノートや色えん筆など机の中の物を取り出しました。何も見えていない状態でも取り出すことができました。

それは、整理整とんをしていたので、何がどこにあるかわかっていたし、手の感覚で探すことができたからです。

これからも整理整とんを心がけていきたいと思いました。

次に、いろいろな所を歩いてみました。見えていない状態で歩くのは、やっぱりこわかったです。

でも、サポートの人がそばにいてくれると、少し安心することができました。しかも、サポートの人が前にいてくれる方が安心するとわかりました。

白杖を使って、一人で障害物を避けながら歩くこともしました。杖があると、歩く方向に何かあるかわかるけど、サポートの人がついていないと不安でした。

次の授業で、全盲の廣田さんと交流しました。

廣田さんのお話で、一番心に残っていることは、目が見えなくても毎日楽しくすごすことができるということです。

私は、目が見えなかったら、不便だしできなくなることが多いから、楽しいこともあまりないだろうなと思っていました。

でも、廣田さんのお話を聞いて、目が見えなくても、楽しいことはたくさんあることを知ることができました。

一番おどろいたことは、目が見えなくても「こわくない」ということです。私は見えなかったらこわいなあと思っていたので、とてもびっくりしました。

廣田さんは、小さい頃、兄弟といっしょにおにごっこをしたそうです。

「目が見えない中でも、兄弟からサポートしてもらいながら、遊ぶことを通して『こわい』と感じることが少なくなったんじゃないかな。」

と、話してくださいました。

私も見えなくてもサポートの人がいたら安心するなと感じていたので、廣田さんも私も同じだなと思いました。

全盲体験では、目が見えないことに対し、こわさや不便さを感じていました。

しかし、廣田さんの話を聞いたら、「こわくない」「楽しい」という目が見えない人の本当の気持ちも知ることができました。

「こわくないと感じるのは、みんながいつもいっしょにいてくれたから。」

と、廣田さんは話してくださいました。

私もいつも周りにいてくれる友だち一人ひとりを大切にしようと思いました。

そのために、相手のことをもっとよく知って、ひとりぼっちをつくらないようにしていきたいです。

だれもひとりぼっちにならない、みんなが差別をせずに助け合っていける、そんな明るい社会になったらいいなと思います。

この人権作文について、意見や感想、激励など、お寄せください。また、みなさんの投稿もお待ちしています。

わたしたちをとりまく様々な不合理や差別性について気づいたことや感じたことを一二〇〇字程度にまとめて、住所、氏名、連絡先電話番号を記入して（匿名も可）、玖珠町教育委員会社会教育課「あなたの人権・わたしの人権」までお届けください。